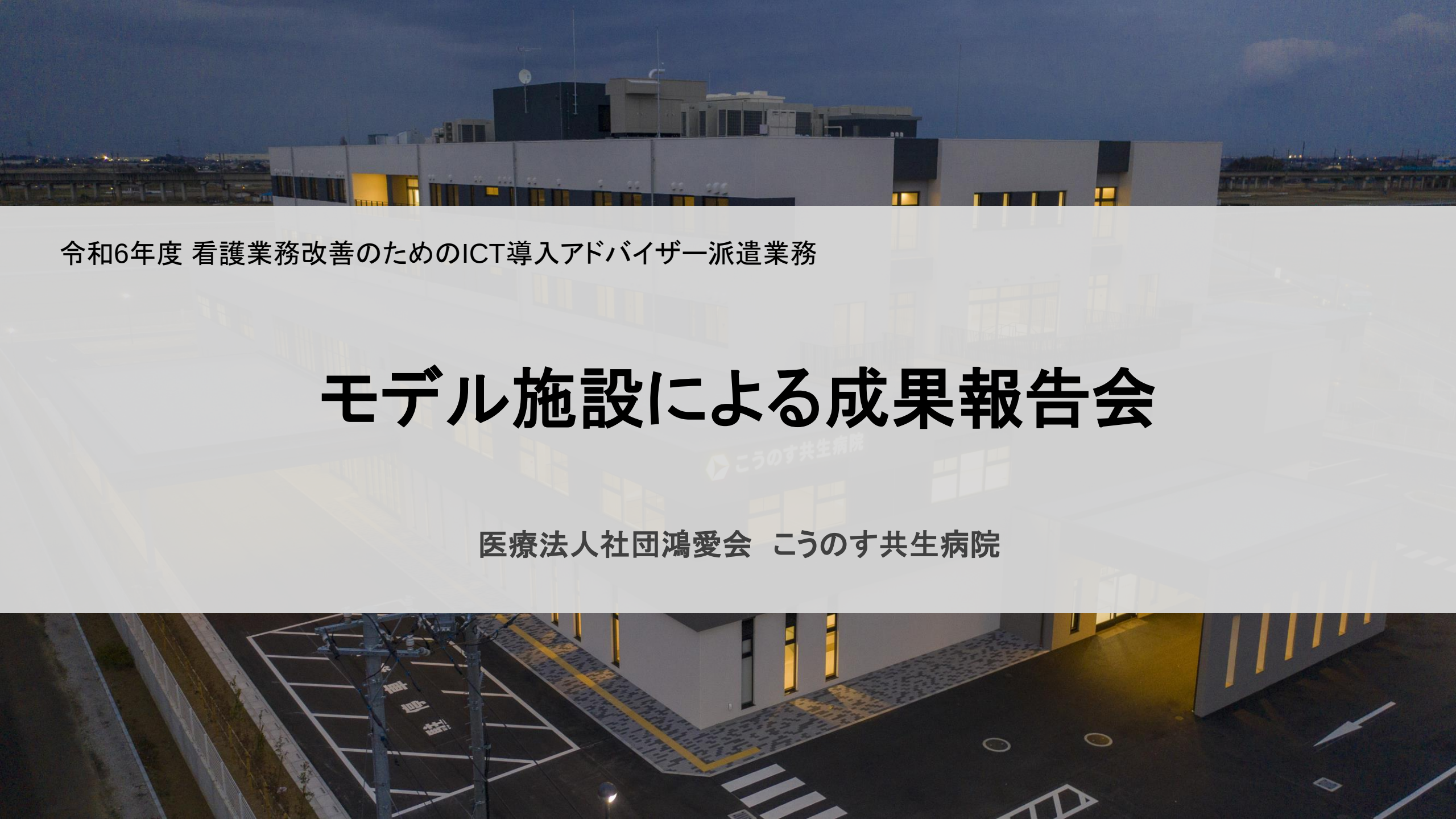




令和6年度 看護業務改善のためのICT導入アドバイザー派遣業務

モデル施設による成果報告会

医療法人社団鴻愛会 こうのす共生病院

施設概要

病院理念

苦しみや悲しみを癒し、希望にお手伝いするあなたと共に生きる病院



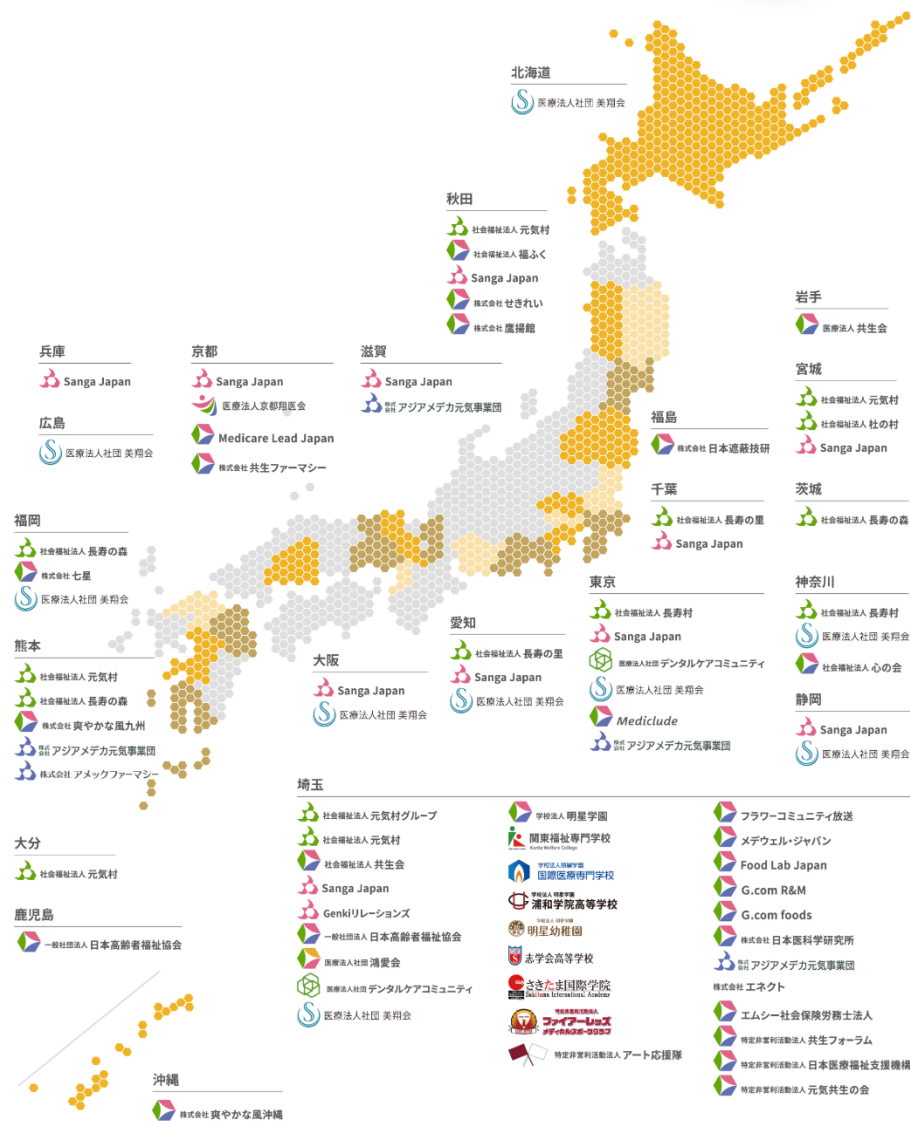
所在地	埼玉県鴻巣市上谷20730-1
病床数	116床(令和7年1月1日現在)
主に算定している入院基本料	急性期一般入院料4、地域包括ケア病棟入院料1
職員数	317名(令和7年1月1日現在) うち看護職員137名(看護師89名、准看護師11名、看護補助者37名)
患者数	令和5年度 入院患者のべ数34.651名、退院患者のべ数1.296名(うち看取り患者のべ数126名)
看護部の理念 (患者へのケア方針)	私たちは、患者さんやご家族の皆様の思いに より添い、共に考え、共に歩みます 私たちは、看護師が自分らしい生き方を送る ことができる職場をつくれます
看護提供方式	固定チームナーシング/機能別
看護記録方式	SOAP・経時記録等
現在使用している看護機材	ナースコール・aamsセンサー等
看護師の離職率	令和5年度 新人看護師0%、その他看護師13.5%
問い合わせ先	https://kouaikai.jp/ 、 048-541-1131、 info@kouaikai.jp

グループ概要

介護
Kaigo

医療
Medical

教育
Education



本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

日本において少子高齢化の課題は諸外国に比べて例をみないスピードで高齢化が進んでいる。また埼玉県は全国で一番高齢者人口の増加率が高い。今後2050年には全人口の約40%が75歳以上を占めると言われる状況にあるが、一方医療機関で働く人員が不足し業務が逼迫している。

少子高齢化が進むにつれて高まる医療需要の中、適切な医療サービス、患者ケアの提供、医療安全の向上、診療報酬改定、施設基準の対応など今後医療機関で働く職員に求められるものが雪だるま式に増加していく。

この背景を乗り越えるために、当院は4年前から20システム以上のシステムを導入しスマートホスピタルを目指しているが、これまで以上にICT導入・利用における効果を発揮し、病院運営や看護ケアの質を高めるために、本事業への参画を決定した。

本事業の目的

当院は、AIやICTを単なるツールとしてではなく「血の通ったロボットと人が共存し一体となり、ぬくもりのある医療・介護を提供する」ことを目的にしており、働きやすさ・働きがいを最大化し、「働きやすさ・働きがいを感じた職員が、個々の健康や幸福を大切にしながら、関わるすべての人々の幸せに貢献する」ことを実現していきたいと考えている。その結果、誰もがどんな時でも自分らしく、今が一番幸せといえる環境を作り出せるようにしていく。

具体的には、看護記録の効率化や看護ケアの充実度を上げ、看護師の精神的、肉体的な負担をなくしながらゆとりのある職場環境を作り、患者様とのコミュニケーションの時間や職員・患者・ご家族の自己実現を行う時間にする。

取り組み予定期間と主な内容

期間		主な取り組み内容
令和6年度	7～9月	・外部アドバイザーによる看護業務課題の抽出
	10～12月	・導入したいICT機器の検討・ベンダーヒアリング ・ICTを導入せずとも改善可能な業務の改善方針の検討、導入に向けた院内での合意形成
	1～2月	・ICT導入計画書作成 ・成果報告書作成
	2月	・Ubie生成AIの導入 ・aams取り扱い運用変更
	3月	・成果報告会への参加
令和7年度	4月～6月	・システムの使い方の見直しと検討会実施 ポケさぼ、生成AI、MediEazeなど
	5月	・システムのワークショップ実施(主催:看護部、システム情報管理課)
	6月	・機器の使用方法の不明点を解消する質問会の開催#1(主催:ベンダー)
	10月	・機器の使用方法の不明点を解消する質問会の開催#2(主催:ベンダー)
	11月～12月	・効果測定
令和8年度		・効果測定、測定した結果の分析・取りまとめ ・次年度以降で実施すべき課題、その他のICT機器導入余地の検討
令和9年度以降		・3年目に洗い出された課題への取り組み

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

申し送り時間が長い、見守りセンサーの取り扱い、看護記録時間等の業務が看護師の疲弊やモチベーション低下の原因となっている。本来やるべき「看護」ではなく「業務化」していることを改善したい。

目標

- ①看護ケアの充実：患者と向き合う時間を増やす
- ②患者・ご家族の自己実現の支援・時間：入院中であっても患者・ご家族のやりたいことを叶え、Well-beingを高める
- ③職員の自己実現の時間づくり：自分のやるべきこと、やりたいこと、叶えたいことなどキャリアアップにつながる時間の確保
- ④仕事に余裕が確保され、職場の雰囲気がよくなり働きやすさ、やりがいにつながる。離職率低下。

取り組み内容（業務改善を行う業務）

#	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来の所要時間 (時間/年)	想定削減余地	
				想定削減 可能時間(時間/年)	業務全体に占める 割合(%)
1	見守りセンサー取り扱い	aams	4,314	2,381	55.3%
2	手術の説明	ポケさぼ	1,427	521	36.5%
3	看護サマリ作成	Ubieメディカルナビ 生成AI	709	485	68.4%
4	申し送り	Ubieメディカルナビ 生成AI	2,433	2,251	92.5%

ICTのご紹介(ポケさぽ)

PMFをベースとした患者説明システム。多様な患者説明に対応し、患者説明に係る時間を削減し、個別ケアに充てる時間を創出する

製品の概要

- ポケさぽとは、動画やメッセージで患者説明を半自動で実行するシステム
- 前提条件としてchromeブラウザが使用できるPC端末1台、LINEアカウント1つ、導入時に限りスマートフォン1台必要
- 患者説明機能は以下3つ。初期費用で5パターンまで作成可能
 - 患者への説明を、わかりやすいオリジナル動画やLINEメッセージでご案内
 - 入院/検査日にむけてメッセージを自動配信し、患者を当日までフォロー。書類の書き方や持ち物、前処置の薬の飲み方等をリマインド
 - 患者さんからの一部問い合わせを、テキストで受け付けることも可能(機能オフも可能)
- アナムネ・問診機能は以下の5つ
 - アナムネと複数の問診をまとめて、1つのフォームに
 - 患者さんはスマホからフォームに回答を入力
 - 回答の出力は、手書きの問診票と同じデザインに
 - 患者さんの回答をふまえて、加算などの判定支援も可能
 - 回答は電子カルテにPDFデータとして連携し、コピー入力とQRコード入力が可能



イニシャルコスト

- 500,000円(税別)

課題と期待される効果

課題

- 入院説明にかかる時間にばらつきがあり、説明する場所の限りもあるため、患者の待ち時間が発生する
- 入退院支援業務は診療報酬改定により業務範囲が拡大したが、人手不足もあり職員の業務負担が増えている
- ペーパーレス化を推進しており、患者への配布物を減らしたい

期待される効果

- 導入効果としては「業務負荷軽減」「時間の有効活用」「ペーパーレス」
 - ✓ 対面業務が1時間から30分に半減した施設もあり、空いた時間は指導や新規患者対応に活用。待ち時間の短縮にも寄与
 - ✓ 1人あたりの配布資料をPDF化することで紙資料を約30%軽減(配布している資料内容なデジタル化対象とする資料枚数で削減枚数は異なる)

ランニングコスト

- 100,000円(税別)/月 ※入院説明・上部内視鏡・下部内視鏡・MRI検査説明の3種

ICTのご紹介(ユビーマディカル生成AI)

診療の質向上を支援する医療機関向けサービス。生成AIの活用が医療現場での業務効率化に寄与

製品の概要

- ユビーマディカルナビ生成AIとは、医療機関の業務に最適化した生成AIサービス
- 前提条件として電子カルテの導入(Google Chromeのインストールは必要)
- 文章の作成や要約、校正といった業務負荷の高い作業を、生成AIにより効率的に行うことが可能
- 文章生成・要約の他、音声認識、画像認識、検索拡張生成(RAG)などの利用が可能
- 入出力されたデータは言語モデルに学習されないため、閉域回線接続サービス等の、セキュアな環境で生成AIを活用可能
- 生成AIができること(一部開発中)
 - 医師の診療情報提供書の作成補助
 - 看護師の退院時看護予約作成補助
 - 他施設からの紹介状要約
 - 各種診断書の文書作成
 - 電子カルテへの診療記録の文書作成
 - 業務マニュアルからQ&Aの回答
 - 議事録要約



イニシャルコスト

- 1,800,000円(税別)

課題と期待される効果

課題

- 医師の働き方改革により、医師をはじめとする医療従事者の業務効率化・負担軽減が求められている
- 文章の作成や要約、校正は業務負荷が高い

期待される効果

- 事務作業の業務効率化
 - ✓ 文章作成や要約、校正といった業務負荷の高い作業を生成AIにより効率的に行うことができる
 - ✓ 退院時看護要約業務を最大1/3に短縮に短縮可能
- 業務の質向上・均一化
 - ✓ スタッフのベストプラクティスを医療機関内で共有し、業務内容を改善することができる

ランニングコスト

※テキスト画像:70ライセンス、音声オプション:50ライセンス

- 導入6ヶ月まで 294,900円/月
- 導入7ヶ月以降 414,000円/月

ICT導入により見込まれる効果

#	製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
		定性or定量	測定したい効果			
1	Ubieメディカルナビ生成AI	定量	看護サマリ作成時間の短縮	導入前後の期間において、数件ずつランダムに選定し、看護サマリの作成時間がどのくらい短縮されたかを測定する	1／3以上短縮	導入1か月前・導入6か月後
			残業時間の減少	ICT活用前後を比較し、残業時間を測定する	5%減少	導入前年度 導入1年後
		定性	職員のストレスの軽減	導入前後の期間において、患者、看護師それぞれ数名ずつランダムに選定し、入院手続き・対応への満足感やストレス度合いについて聞き取り調査を行う	患者、看護師のそれぞれ半数以上(50%以上)が導入後の運用に満足している	導入1か月前・導入6か月後
			業務効率、負担の軽減			
2	ポケさぼ	定量	患者・ご家族への説明時間の短縮	入院手続きにかかる待ち時間を測定する。導入前後で数名ずつランダムに患者を選定し、説明時間を記録し、その平均値の差を算出する	5分以上削減	運用変更後1か月前・導入6か月後
		定性	職員のストレスの軽減	導入前後の期間において、患者、看護師それぞれ数名ずつランダムに選定し、入院手続き・対応への満足感やストレス度合いについて聞き取り調査を行う	患者、看護師のそれぞれ半数以上(50%以上)が導入後の運用に満足している	運用変更後1か月前・導入6か月後
			業務効率、負担の軽減			
			患者満足度の向上			運用変更後1か月前・導入6か月後

本事業全体を通して得られた効果・影響

当院では、一般急性期病棟、地域包括ケア病棟の2病棟を運営。それぞれの病棟での看護業務課題を抽出した。

- ・ヒアリングから見えた特長

- ⇒看護部内で完結する業務が多くを占めており、看護部内での業務改善を進めていくことが先決であることが得られた。



- ・現場リーダーは業務改善に意欲的な副主任が適任であると結論付けた。

- 以下の2点を優先した。

- ①離床センサー(aams)の使用方法的改善
 - ②申し送り時間の軽減

当院での取り組みポイント

“記録”より“記憶”に残る看護を提供する



- 申し送り時間の軽減: 全体申し送りのみとし電子カルテの記録で申し送る
- 看護部委員会時間短縮: 事前に共有すべき内容は議事録に記載、確認し提案事項のみ会議で討議する
- 離床センサー(aams)の使用方法の見直し: 離床センサーが患者に本当に必要か検討する。個別性に合わせたアラーム設定にする
- 看護サマリー: 退院時サマリー、転棟時サマリーを生成AIにて作成し看護師が確認

今後の展望

看護の
専門職人として

自己実現、やりたいことができる職場環境

働きやすさと
やりがい

時間的余裕が確保できる職場
支え合う看護（利他の心）
患者と触れ合える時間を確保し感謝が増える

DXのさらなる
活用

患者ごとに専用のURLを発行し、
LINEでつながる仕組みづくり

ご清聴ありがとうございました